



個人投資家向け会社説明会

証券コード | 1848



人と人をつなぐ。それはやがて、景色になる。

株式会社富士ピー・エス

2026年2月14日



INDEX

1.	会社概要-----	2
2.	特徴・強み-----	8
3.	決算概要-----	15
4.	市場動向-----	18
5.	成長戦略-----	21
6.	企業価値向上への取り組み-----	27
7.	最後に-----	31

INDEX

1. 会社概要
2. 特徴・強み
3. 決算概要
4. 市場動向
5. 成長戦略
6. 企業価値向上への取り組み
7. 最後に

1. 会社概要

人と人をつなぐ。
それはやがて、景色になる。

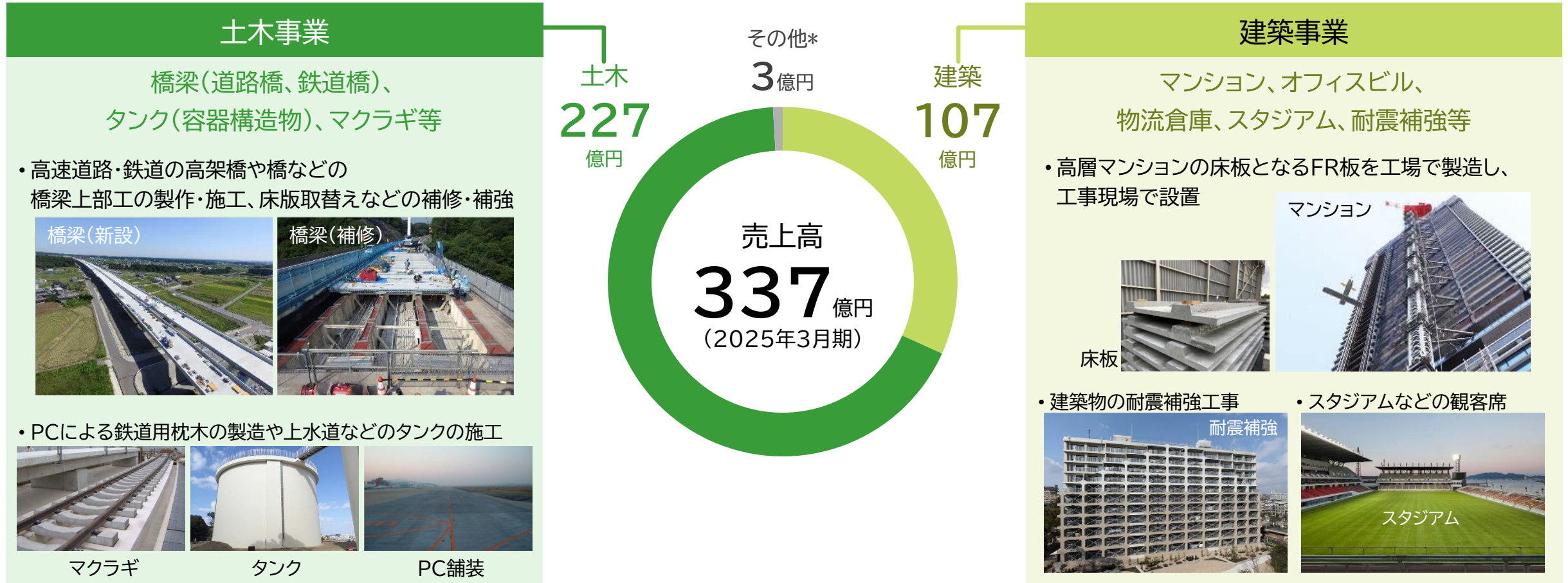


■ 社名	株式会社富士ピー・エス
■ 創立	1954年3月
■ 本社所在地	福岡市中央区薬院一丁目13番8号
■ 上場	東証スタンダード、福証(証券コード:1848)
■ 資本金	23億7,927万円
■ 従業員数	493名(2025年3月末現在、連結)
■ 事業内容	■ 土木事業 ■ 不動産賃貸事業 ■ 建築事業 ■ その他
■ グループ会社	駿河技建株式会社 株式会社ピーエフ・ディー ミャンマー富士ピー・エス建設株式会社

1-2. 会社の特徴①-PC(プレストレスト・コンクリート)の専門家



- PC(プレストレスト・コンクリート)を用いて、道路・鉄道の高架橋の橋梁上部工やマンションの床材を設計・製造・施工



*不動産賃貸事業は2026年3月期1Qから「その他」へセグメント変更

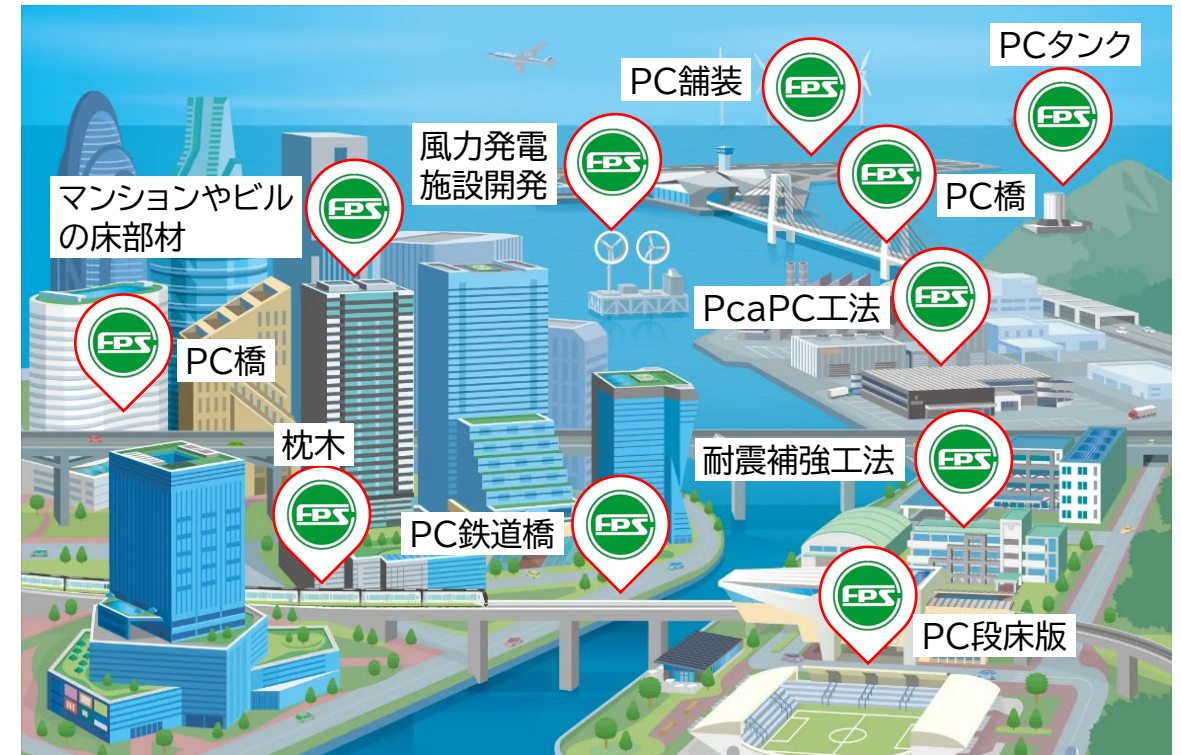
1-2. 会社の特徴②-こんなところに富士ピー・エス



プレストレスト・コンクリート ▶ 略して **PC**

Pre stressed **C**oncrete
あらかじめ圧力を与えられた コンクリート

プレストレスト・コンクリートは、
圧縮応力を与えることで、ひび割れを制御し、
耐荷性・耐震性・耐久性の高いコンクリート

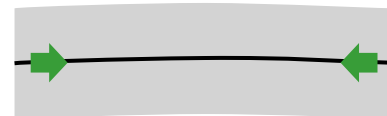


PC

あらかじめ緊張材(PC鋼材※)により
圧縮応力を与えたコンクリート

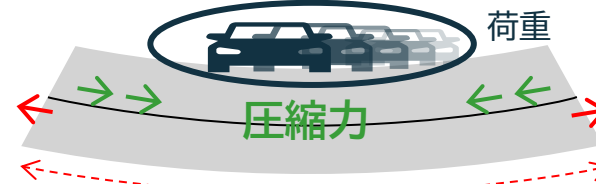
※PC鋼材 | 鉄筋の5～6倍の強度を持つ高強度の鋼材

あらかじめ圧縮応力
を与えたPC



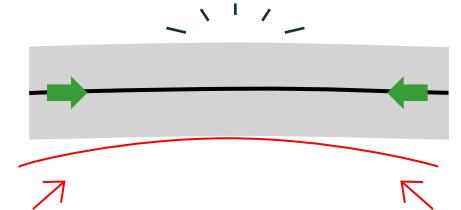
PC鋼線は常に縮もう
としている

元々の圧縮力により引張力
は打ち消される



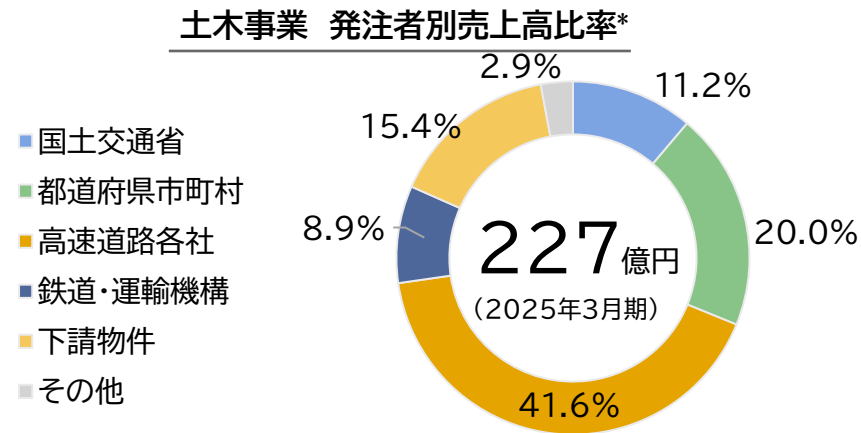
荷重によるたわみに合わせて引っ張られる

荷重が無くなると圧縮力
により元に戻る



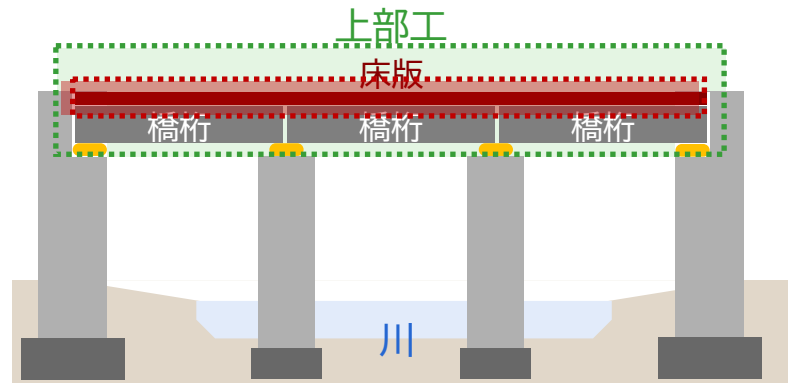
1-3. 主な事業セグメント①-土木事業

- プレストレスト・コンクリートを用いた橋梁の新設工事や補修補強事業が中心
- 売上高比率の約4割を占める高速道路各社は、新設工事の他、「大規模更新事業」と称される50年以上供用された高速道路の床版部分の劣化に伴う取替工事が盛況



*管理会計の数値のため、決算短信の数値とは異なる

橋梁の構造



施工実績

阿見高架橋(圏央道、NEXCO東日本)



楊梅山高架橋(新名神高速道路、NERXCO西日本)



本村川橋(中国自動車道、NEXCO西日本)



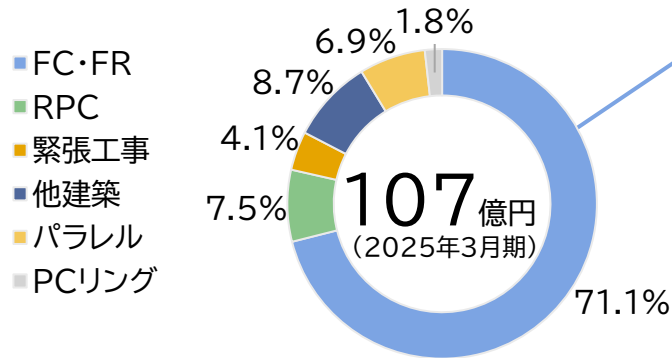
木部高架橋(三隅・益田道路、中国地整)



1-3. 主な事業セグメント②-建築事業

- 主な事業は、工場製品としてのPC合成床板をはじめとする構造用部材の供給、既存建物の耐震補強など
- PC合成床板の製造・施工が売上高の約70%。集合住宅向けではトップメーカー、高層マンションでは50%以上のシェア
- 柱や梁もプレキャストPC化したPC建築では、現場での作業削減による省人化・工期短縮・騒音軽減を実現

建築事業 製品別売上高比率*



当社開発 プレキャストPC合成床板

FR板



業界シェア 50%以上

FC板



DM板



プレキャストPC部材



プレキャストコーナー梁



プレキャスト柱建方

東京未来大学体育館(PCaPC工法)



施工中



施工中



完成

* RPC : ラーメンプレキャスト鉄筋コンクリート、パラレル : PC鋼材を用いた建物の耐震補強工事、PCリング : プレキャストコンクリート製のリングを杭頭に被せ、杭と基礎とを接合

INDEX

1. 会社概要
2. 特徴・強み
3. 決算概要
4. 市場動向
5. 成長戦略
6. 企業価値向上への取り組み
7. 最後に

2. 特徴・強み

01 工場製品需要への高い対応力

東北から九州まで自社工場を6つ保有し、全国各地の需要に対応可能。現場作業を減らし、工程短縮や猛暑時の作業削減に貢献する**プレキャストPC工法**にも対応。



02 補修・補強工事での競争力

補修補強を**専門**にする駿河技建を**子会社化**。
高速道路の**床版取替**を目的とした**機械**を開発。
調査・診断から自社施工までワンストップ。



03 建築分野での高いシェア(集合住宅向け合成床板)

自社製品「FR板」は、高層マンション向け床材として**シェア50%超**。
長期優良住宅仕様FR板や**低炭素型FR板**なども開発中。



04 技術開発分野の高い充実度

2019年に新部署【技術センター】を組織。2021年には福島県いわき市に【いわき研究所】を設置し、**技術開発活動を加速**させる。
現場や工場の**生産性向上**や**品質向上**につながる技術開発、そして**脱炭素**など未来を目指した技術開発活動を進める。



【強み①】6つの自社工場の有効活用(1)



建設業を取り巻く環境

人手不足の問題

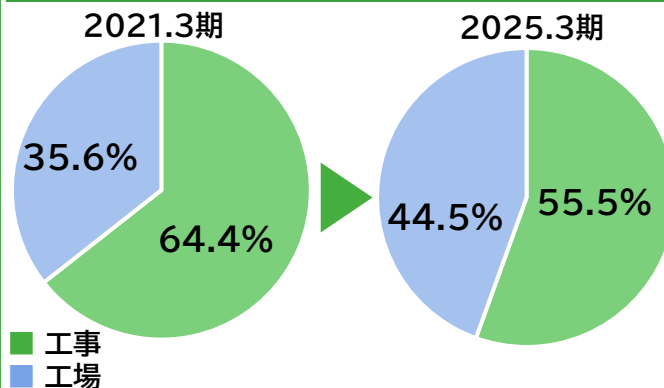
猛暑などの気候変動

働き方改革

高速道路大規模更新事業

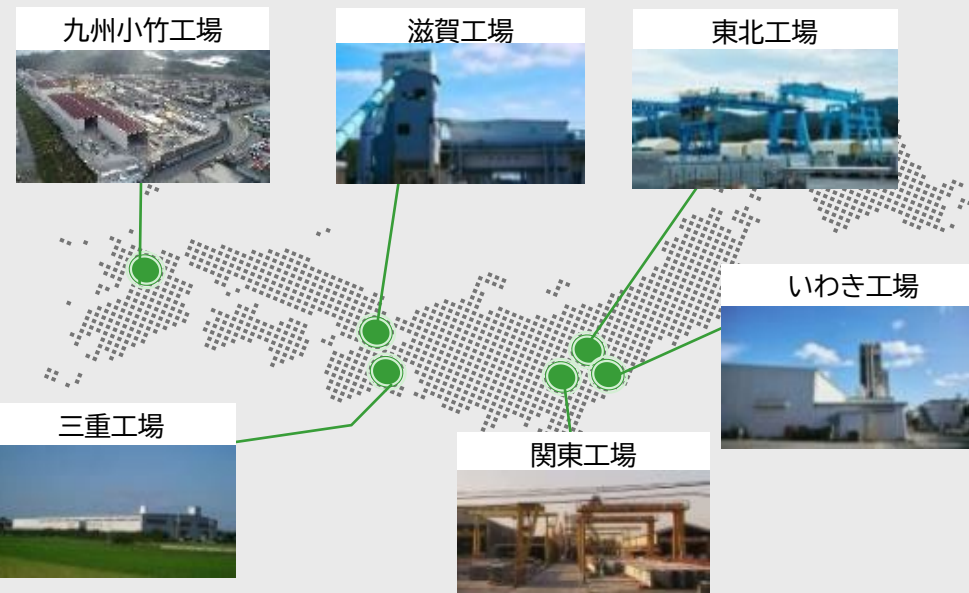
生産性向上の促進

工場製品の需要増



5期前と比較して、
工場の比率が10%程度上昇

全国をカバーする工場生産体制



【自社工場の有効活用に向けた当社の取り組み】

近年の取り組み

■九州小竹工場リニューアル工事

総額33億円の設備投資で

【生産性の向上】

【就業環境の改善】を実現

生産量	20.0%UP
売上高	38.9%UP
製造棟の屋根カバー率	44.0%UP

今後の主な取り組み

■工場生産のオートメーション化

各種情報(営業、設計、調達、製造など)を集約するデジタルプラットフォームを核として、生産性の向上に繋げる

■生産ラインの合理化・効率化

自動生産ライン・ロボット技術を活用した製品製造による省人・省力化

【強み①】 6つの自社工場の有効活用(2)-プレキャストPC工法による建築



- PC技術のトップランナーとして、工場で製造したプレキャストPC部材を用いた建築物の設計から製造、施工まで実施
- 当社の強みである工場製造を活かし、建築現場での作業量を減らし工期を短縮、猛暑等による作業員の負担軽減にもつなげる

現場打ち

作業員不足

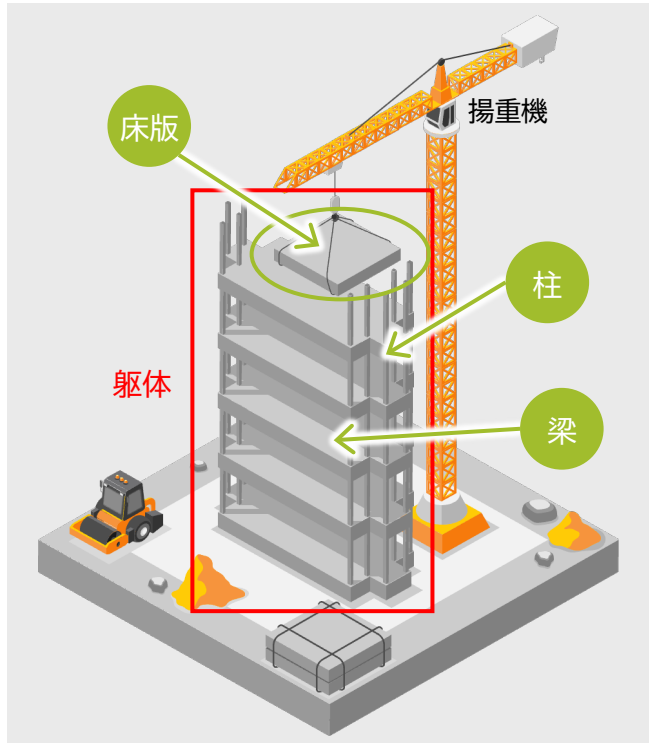
天候不順(猛暑・豪雨等)



プレキャストPC工法
(PCaPC工法)

工場で製造したプレキャスト部材(柱、梁、床板など)を現場で組み立て、プレストレスを導入し、プレキャスト部材を圧着し躯体を構築

建築物の基本構造



これまでの実績(PCaPC工法による建築物)

北海道ニセコの高級リゾートホテル「HAKU Villas」



東京未来大学体育館新築工事



今後の展開



九州小竹工場の職員用事務所を建造



設計・製造・施工を一貫して行う
モデルケースとして、
将来の中高層建築物への展開
を図る

【強み②】補修・補強工事での優位性



- 主要高速道路は開通から50年以上が経過し老朽化が顕著、国土強靱化計画もあり、道路補修が引き続き増加する見通し
- 高速道路リニューアルプロジェクトの一つである「床版取替工事」のパイオニアとして、施工性を求めた新技術やPC床版の製造が可能な自社工場を持つという優位性を活かして、需要の更なる取り込みを目指す

駿河技建とのシナジー

- ・中部地域での橋梁工事受注拡大
- ・橋梁の調査診断、補修工法の提案強化



【駿河技建】橋梁の補修補強工事を専門とする子会社

床版取替のパイオニア

- ・昭和61年に当社が日本で初めてPC床版による床版取替工事を実用化
(大分県 府内大橋)



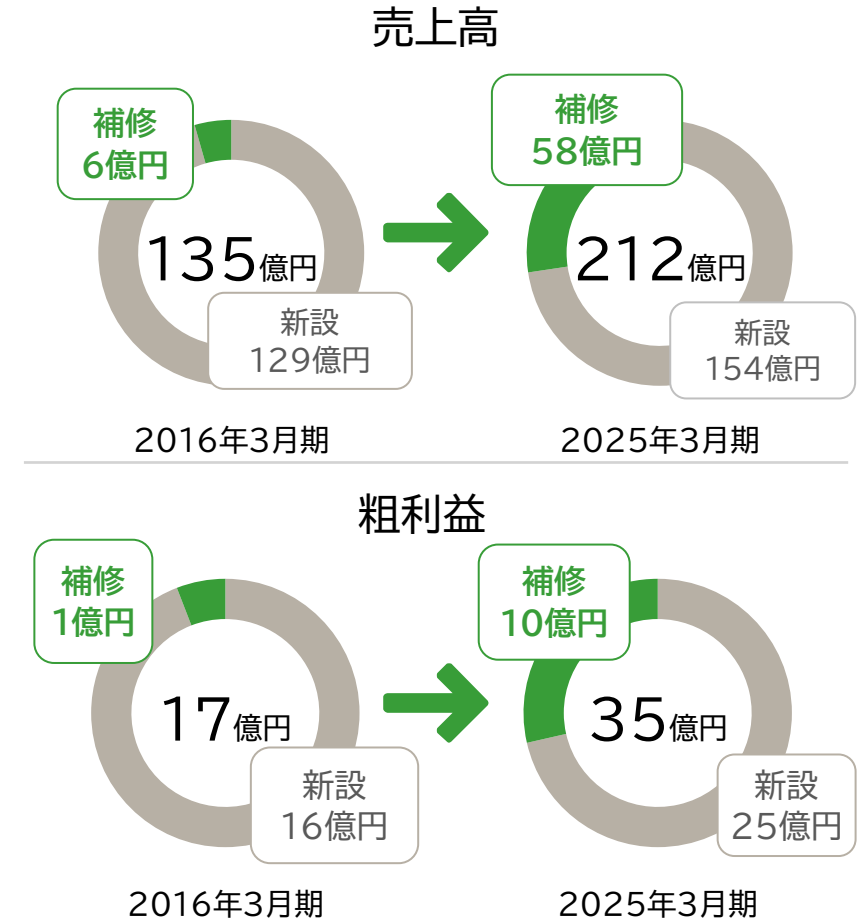
【府内大橋】国内で初めて実施した当時の工事中的の写真

新技術:半断面床版取替施工

- ・床版取替用の架設機【F-ROG】を開発
- ・都市部に近い重交通路線に有効な他、機械化施工により省人・省力化を図る



【F-ROG】F-ROGを用いた床版取替試験の様子



【強み③】集合住宅向け合成床板



- 集合住宅向け合成床板のトップメーカーで、高層マンションの床板では、当社「FR板」のシェアは50%以上、2位・3位メーカーのシェアは各15%程度と推定、3社で寡占。長期優良住宅仕様FR板や低炭素型FR板なども開発中で、FR板のラインナップも強化
- 全国に6工場を有し、建築現場に近い工場から出荷できることが強み。

プレキャスト部材

FR板

フラットな下面と上面にリブを有する
逆T型のリブ付プレキャストPC床板



高層マンション

高層マンション床板シェア

50%以上



工場製作時および現場施工時にも
木製型枠を使用しない、地球環境保
護に貢献するエコロジー商品



リブ部にプレストレストを導入し、長スパンが可能



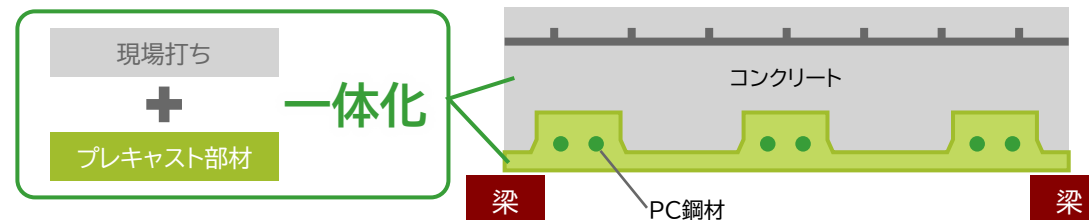
下面がフラットなため、住戸プランに制約がない

特長

- PC床板により高強度 ⇒ 梁・柱の少ない広い空間の建造物が可能
- 工場で製造したプレキャスト部材を現場で組み立てる
「ハーフプレキャスト合成床スラブ工法」により、
現場での工数削減 ⇒ 工期短縮
現場での作業量減少 ⇒ 作業人員の削減

ハーフプレキャスト合成床スラブ工法

プレキャスト部材を梁型枠上に敷設し、現場打ちコンクリートを打設して一体化する工法



【強み④】技術開発分野の高い充実度



- 技術開発分野の強化を目指して、2019年に新部署【技術センター】を組織。2021年には福島県いわき市に【いわき研究所】を設置し、技術開発活動を加速させる。
- いわき研究所では、現場や工場の生産性向上や品質向上、脱炭素や国土強靱化を目指した技術開発活動の他、次世代への技術伝承に資する地元の高専生・大学生への学習機会の提供も実施している。

■ 研究開発活動の質の向上

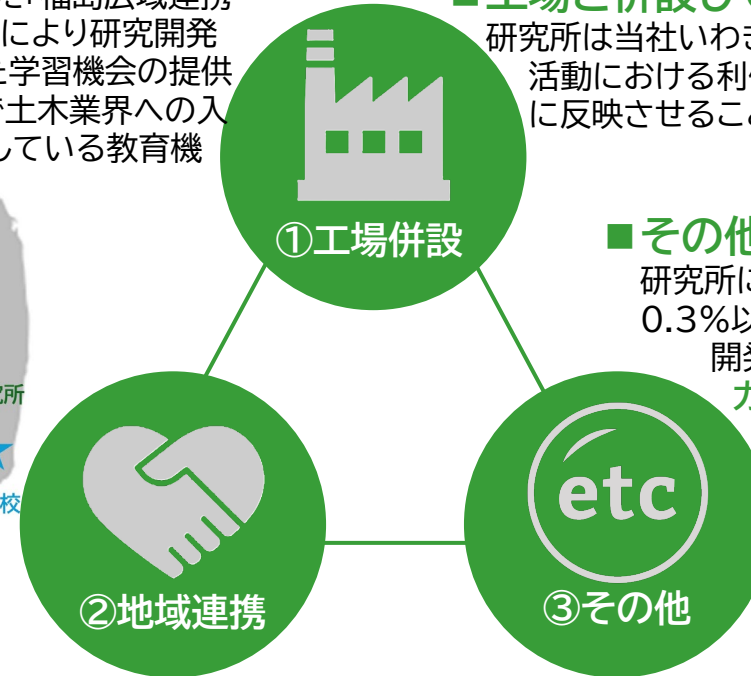
県内の教育機関（福島高専、日大工学部）と連携した「福島広域連携ラボ」により、産学双方の知見を活かした共同研究により研究開発活動の質の向上を実現。また、当所設備を活用した学習機会の提供などを実施。学生により興味を持ってもらうことで土木業界への入職希望者を増やすことも目的の一つである。連携している教育機関より、これまで2名が当社に入社。



◀共同研究の様子

■ 工場と併設している有効性

研究所は当社いわき工場の敷地内に設置しており、実験試験体の製作などの研究開発活動における利便性や工場職員とのコミュニケーションを通じて生の声を研究活動に反映させることで、より生産性の向上に資する研究開発活動を実施。



■ その他

研究所には現在7名が在籍。社会のニーズに対応できるよう売上高の0.3%以上を研究開発費とすることを方針として、毎年約1億円以上の研究開発費を投じている。主な研究テーマは、「AI技術の業務活用」「風力発電」「越水に対する河川堤防の強化構造」「低炭素型FR板の開発」など。

主な実績
PC矢板を用いた河川堤防強化構造に関する研究
風力発電用ハイブリッドタワーに関する技術開発
もみ殻を活用した環境配慮型コンクリートの開発検討
横座屈補剛方法を開発し、特許を取得

INDEX

1. 会社概要
2. 特徴・強み
3. 決算概要
4. 市場動向
5. 成長戦略
6. 企業価値向上への取り組み
7. 最後に

3. 決算概要

5-1. 2026年3月期第3四半期 連結業績の概要(前期比較)



■「工事・工場利益改善プロジェクト」の効果もあり工事採算性の良化により増益

連結 (百万円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前期比	
			増減額	増減率
受注高	19,122	20,735	1,613	8.4%
売上高	24,130	23,494	△636	△2.6%
売上総利益 (売上総利益率)	2,855 (11.8%)	3,515 (15.0%)	660	23.1%
営業利益 (営業利益率)	352 (1.5%)	971 (4.1%)	619	175.9%
経常利益	358	905	547	152.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	194	571	377	194.3%

土木事業

連結 (百万円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前期比	
			増減額	増減率
受注高	13,874	12,568	△1,306	△9.4%
売上高	16,206	16,682	476	2.9%
売上総利益 (売上総利益率)	2,198 (13.6%)	2,762 (16.6%)	564	25.7%

建築事業

連結 (百万円)	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前期比	
			増減額	増減率
受注高	4,962	8,084	3,122	62.9%
売上高	7,721	6,741	△980	△12.7%
売上総利益 (売上総利益率)	535 (6.9%)	707 (10.5%)	172	32.0%

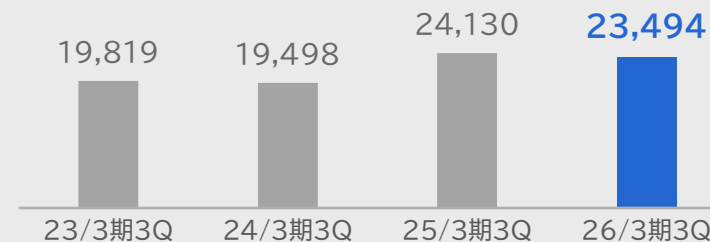
受注高推移

(百万円)



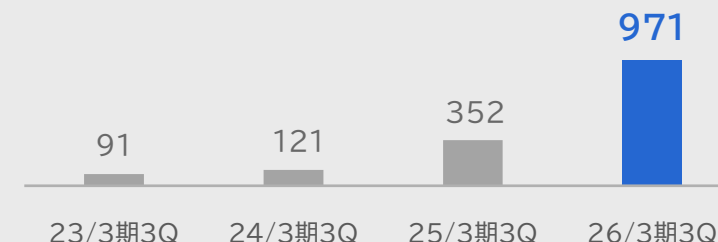
売上高推移

(百万円)



営業利益推移

(百万円)

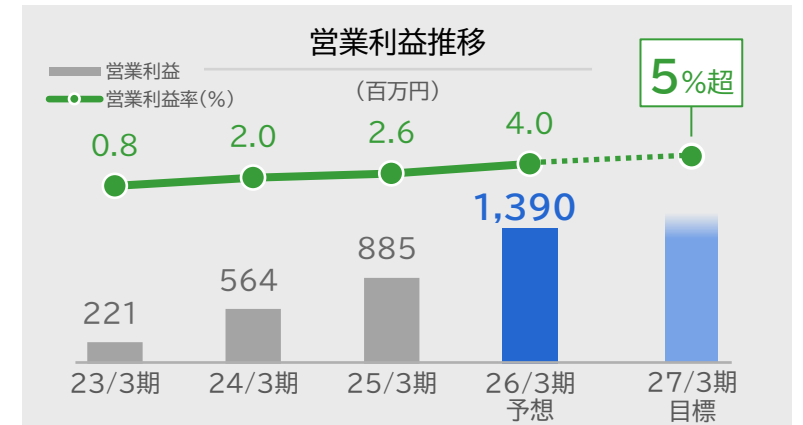
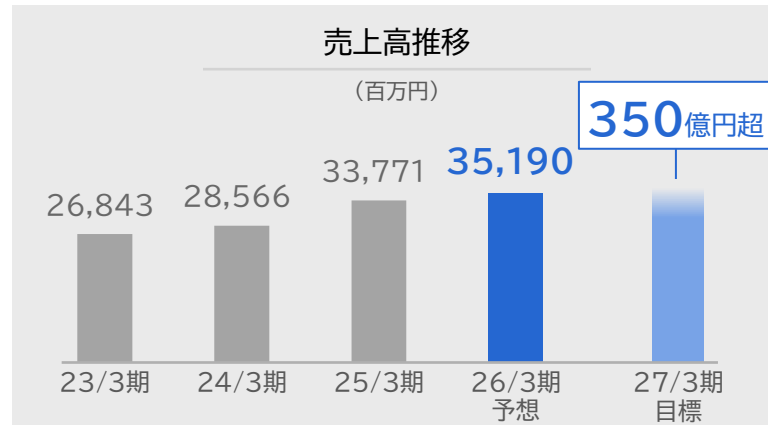


5-3. 2026年3月期 連結業績予想



■ 潤沢な手持工事を着実に進捗させることにより増収、営業・経常利益は増益見込み

連結 (百万円)	2024/3期 (実績)	2025/3期 (実績)	2026/3期 (予想)	前期比		コメント
				増減額	増減率	
受注高	29,735	26,416	34,730	8,313	31.5%	堅調な市場環境のもと手持工事を踏まえ受注確保
売上高	28,566	33,771	35,190	1,418	4.2%	手持工事及び工場製品の順調な進捗により増収予想
売上総利益 (売上総利益率)	3,772 (13.2%)	4,311 (12.8%)	4,905 (13.9%)	593	13.8%	売上高の増加、工事原価改善施策の実施等により増益予想
営業利益 (営業利益率)	564 (2.0%)	885 (2.6%)	1,390 (4.0%)	504	56.9%	売上総利益の増加に伴う増益予想
経常利益	550	851	1,290	438	51.5%	同上
親会社株主に帰属する 当期純利益	415	2,187	780	△1,407	△64.3%	前期は保有不動産の譲渡に伴う売却益があったことから減益予想



INDEX

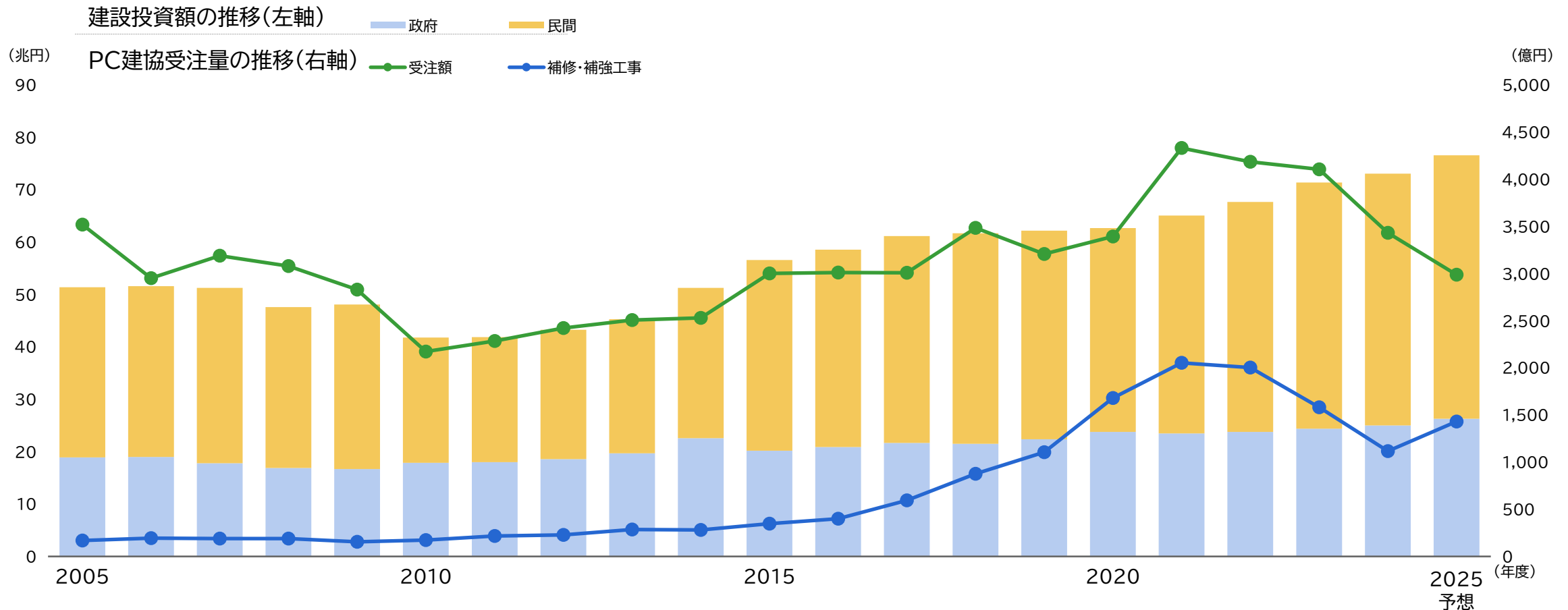
1. 会社概要
2. 特徴・強み
3. 決算概要
4. 市場動向
5. 成長戦略
6. 企業価値向上への取り組み
7. 最後に

4. 市場動向

2-1. プレストレスト・コンクリート工事全体の受注量の推移



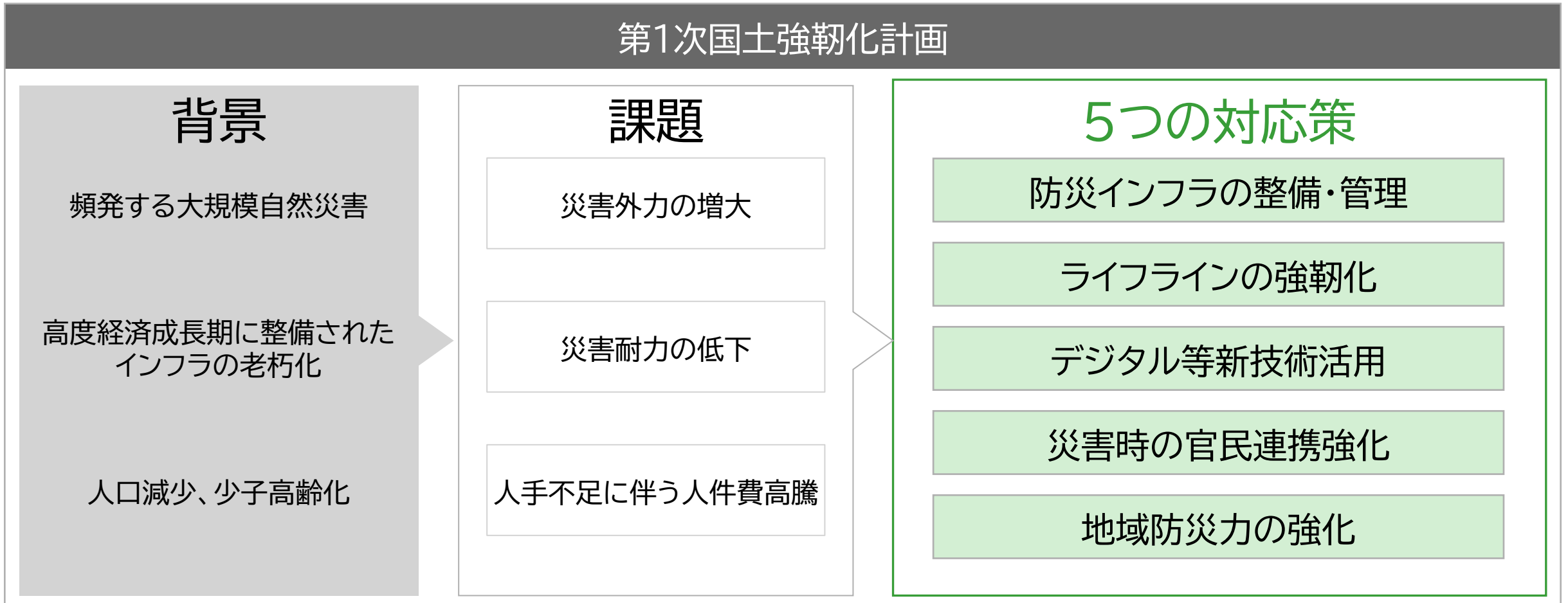
- 2011年の東日本大震災を契機とした国土強靱化や都市部での再開発の増加により、建設投資額は上昇傾向
- PC受注も2011年以降増加傾向、2024年度は3,400億円を超過。新設に加えて補修・補強工事の受注が大きく増加
- 当社も新設に加えて補修・補強需要も積極的に取り込み、2027年3月期に売上高350億円強、営業利益率5%超を目指す



2-2. 第1次国土強靱化実施中期計画(2026年度～2030年度)



- 2025年6月に第1次国土強靱化実施中期計画が閣議決定
- 5年間で20兆円強の財政措置、うち道路・鉄道を含む「交通・通信・エネルギーなどライフラインの強靱化」に約10.6兆円



INDEX

1. 会社概要
2. 特徴・強み
3. 決算概要
4. 市場動向
5. 成長戦略
6. 企業価値向上への取り組み
7. 最後に

5. 成長戦略

VISION2030の全体像

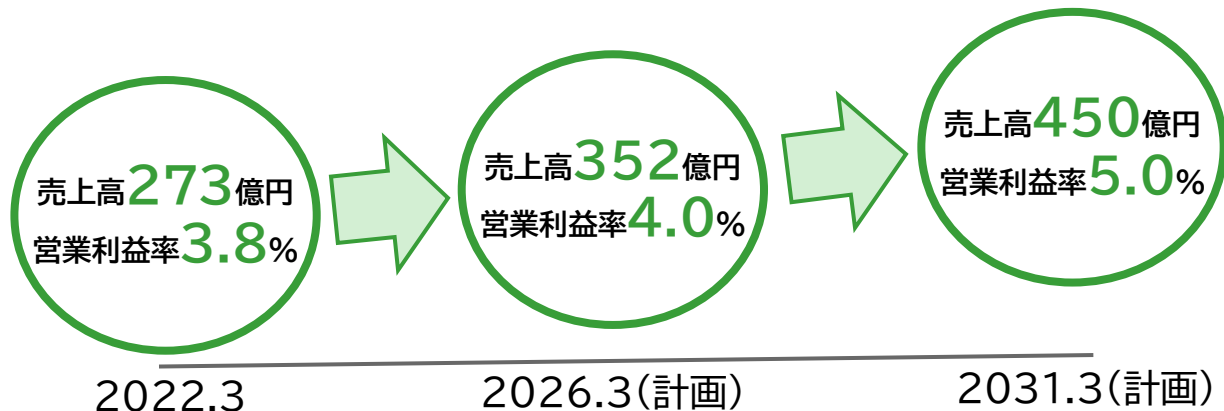


「VISION2030」目指す姿

価値を創造するエンジニアリング企業
顧客の要望にワンストップで応える企業
世界レベルのSDGs達成に貢献する企業

VISION2030が目指すゴール

- ✓ 高収益体制の実現
- ✓ 経常的に経営資源を充実させていく体制・文化の構築



土木事業: 需要の着実な取り込み・新分野への挑戦(防災・陸上・洋上風力分野)

建築事業: 新市場・新製品への挑戦と拡大

その他事業: 更なる拡大

成長戦略

①既存事業の強化

- 既存事業(土木・建築)の課題・取り組み・目指す姿

②新規事業の開発

- PC矢板を用いた堤防補強の事業化
- 風力発電関連の事業化

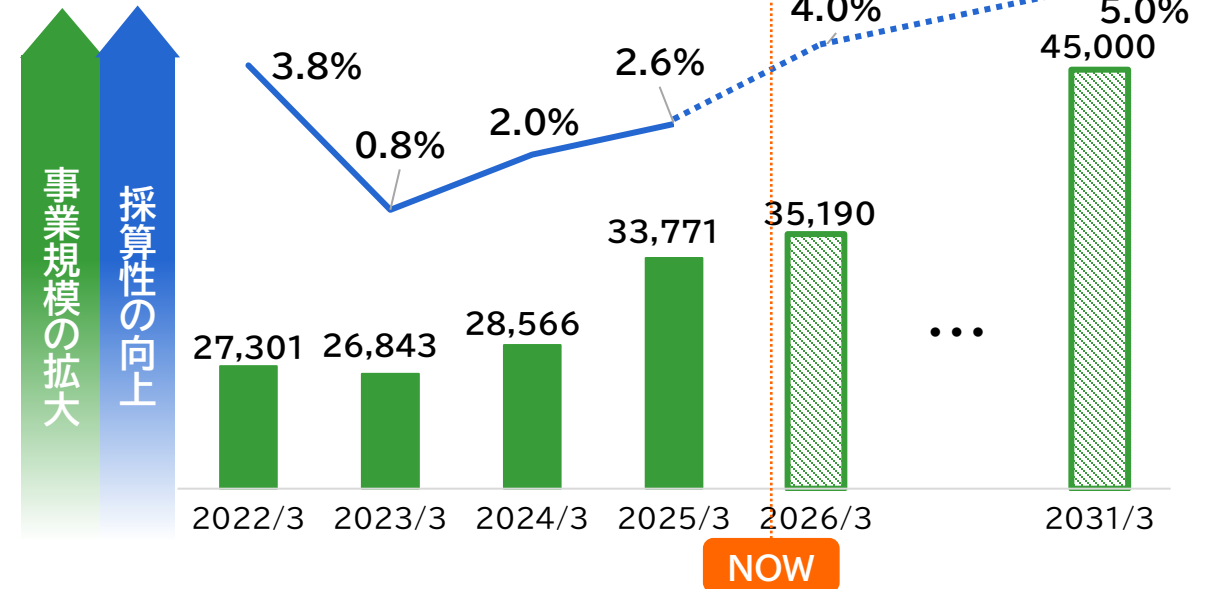
③事業体制の拡大

- M&Aによる事業体制の拡大
- 他社との協業による補完

④業務効率化支援の取り組み

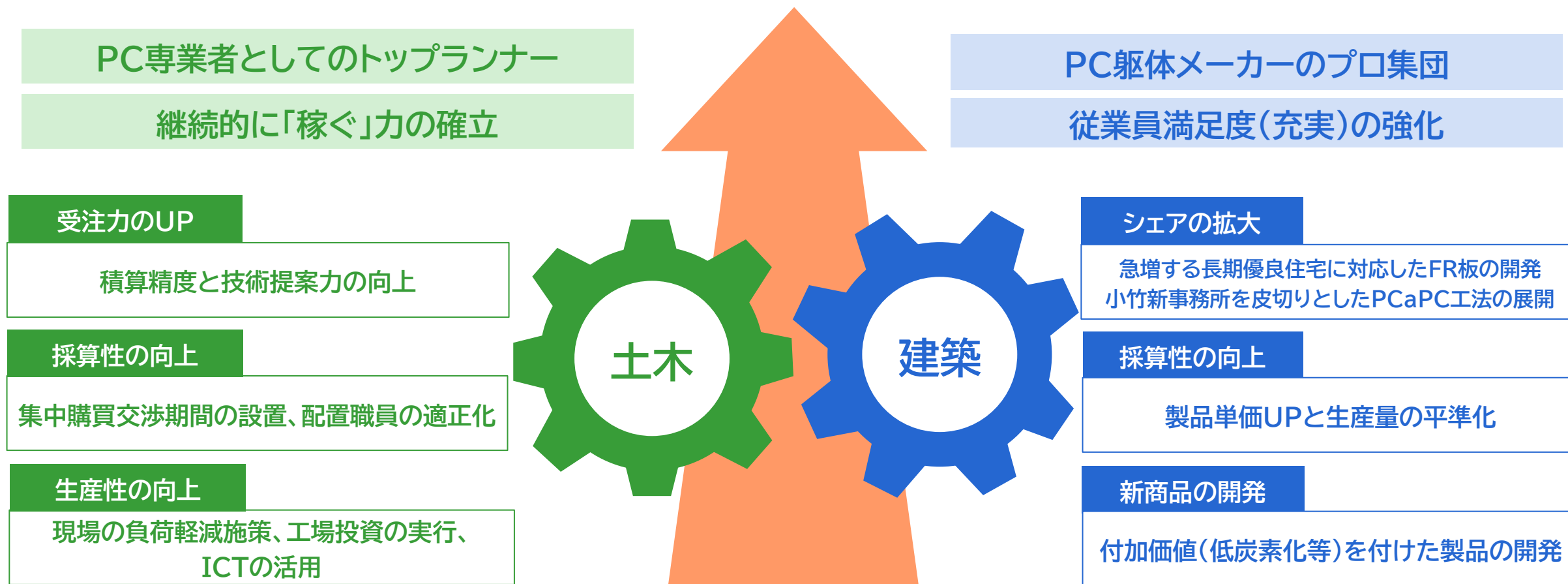
- バックオフィスによる現場業務支援
- ICT技術の活用による業務支援

事業規模と採算性



高収益体制の実現

経常的に経営資源を充実させていく体制・文化の構築



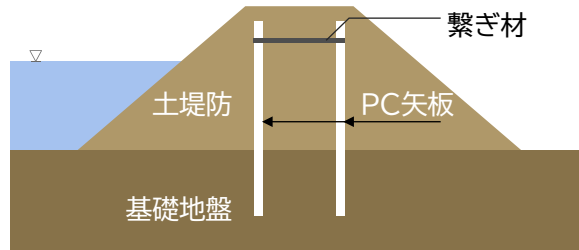
「PC矢板を用いた堤防補強」の事業化に向けたロードマップ

PC矢板を用いた堤防補強の事業化

- 国土交通省が主管するパイロット事業を通じ、当社がこれまで実績を積み重ねてきたPC矢板※の技術を、防災・減災技術へと応用することで、昨今頻発している豪雨等による河川氾濫によって引き起こされる破堤を防止することを目的とした事業化を目指す



九州を襲った記録的な豪雨により決壊した球磨川(2020年7月)



堤防補強を想定したPC矢板二重壁構造(イメージ)

目標

2026年に事業化

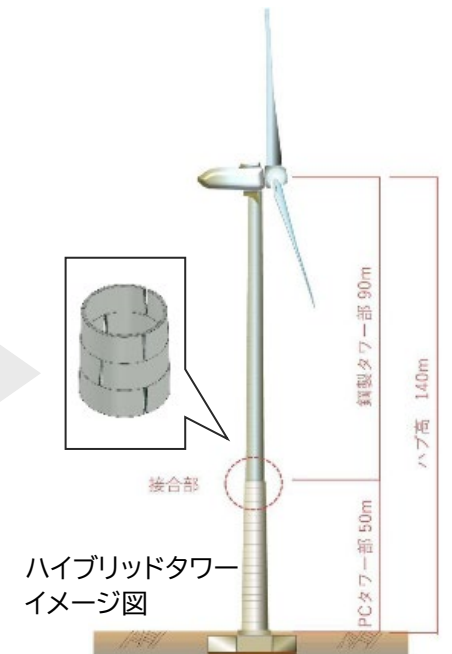
「風力発電関連施設」の事業化に向けたロードマップ

風力ハイブリッドタワーの実用化開発

- 風力ハイブリッドタワー(陸上風力)の実証実験に参画し、当社技術の認証を取得後、福島県における産業復興の実現及びサプライチェーンの構築をめざす

ハイブリッドタワー 特徴

- 鋼コンクリート複合ハイブリッドタワー
- 陸上風力発電より最大で50mほど高い(最長140m)



ハイブリッドタワーイメージ図

目標

2026年度に建造・事業開始
2030年までに5基の受注

①M&Aによる事業体制の拡大

- インフラメンテナンス事業の需要増を見据え、駿河技建株式会社を2021年10月に完全子会社化。

目的

- ・インフラメンテナンス分野において、優秀な人材の確保と技術力の強化を進める
- ・鋼橋塗替塗装の先進工法を導入し、事業の拡大を図る

- 駿河技建(株)をグループのメンテナンス事業の主体として、グループ全体で需要の取り込みを図る。

メンテナンス需要のさらなる取り込みに期待

駿河技建について

社名	駿河技建株式会社
所在地	静岡市清水区伊佐布809-1
設立	2009年6月23日
資本金	2,000万円
支店など	東京支店/御殿場営業所



駿河技建株式会社

②他社との協業による補完

■ 建設業界が抱える課題 (業務提携の背景)

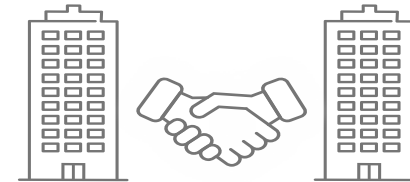
- ①公共工事の「規模の大型化」
- ②防災・減災・メンテ事業等の「多様化」
- ③「担い手不足の深刻化」

■ 協業による課題解決 (業務提携の目的)

- プレキャスト化の推進
- メンテナンス工事におけるトータル対応の実現
- 新規事業の開拓
(下水道管の補強等)

協業による補完で目指す姿

個社のリソースや得意分野を活かした企業活動



主力分野の異なる企業との協業

実例:大豊建設(株)との業務提携を発表(2025.6)

対象市場の拡大

コスト競争力の強化



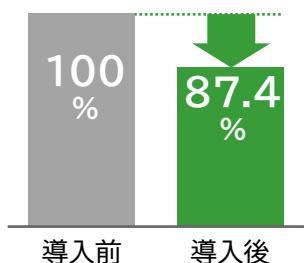
将来的な企業価値の向上

バックオフィスによる現場業務支援

- 2024年度より残業時間上限規制が建設業でも適用。働き方改革の観点からも、現場技術者の業務負担を軽減。
- 2023年度に現場業務の支援を目的に、バックオフィス業務を専門に行う部署を設立。現場技術者の残業時間の削減、自己研鑽の時間確保。

現場業務支援の効果

一日あたり現場職員の勤務時間



現場稼働時間のうち、
1.2時間/日
(12.6%)
を削減

現場職員に余剰時間ができ

- 施工・安全管理へより一層の注力
- 残業の削減
- 自己研鑽

今後の対応

- バックオフィス体制の更なる拡大を目指す。
- 業務の拡大

	2023年度	2024年度
支援現場数	9現場	➡ 19現場
BO職員数	5名	➡ 8名

ICT技術の活用による業務改善

- 国土交通省は、2025年に『ICT指針』を公表
- 当社では、ICTの活用をDXの取り組みの一つと捉え、3の取り組みを通じて生産性向上を図る

①業務効率化の取り組み

- 非効率な業務プロセスや取引慣行の見直し
- 情報の共有、データ化 等

➡ 社内書類のペーパーレス化、工場の生産量・工程の適正化

②生産性向上の為の業務改善

- ICT技術による出来形計測と自動書類作成
- FR板製造自動指令書システムの開発 等

➡ 自動追尾機能による省人化、作業の簡素化

③働き方改革の為の業務改善

- 外国人作業員との翻訳ツール導入
- 「i-conラボ」を組成

➡ 無人化、自動化、遠隔製造・施工などをキーワードとした革新的な取り組みを企画し、業務への実装を図る

INDEX

1. 会社概要
2. 特徴・強み
3. 決算概要
4. 市場動向
5. 成長戦略
6. 企業価値向上への取り組み
7. 最後に

6. 企業価値向上への取り組み

6-1. 収益性の向上



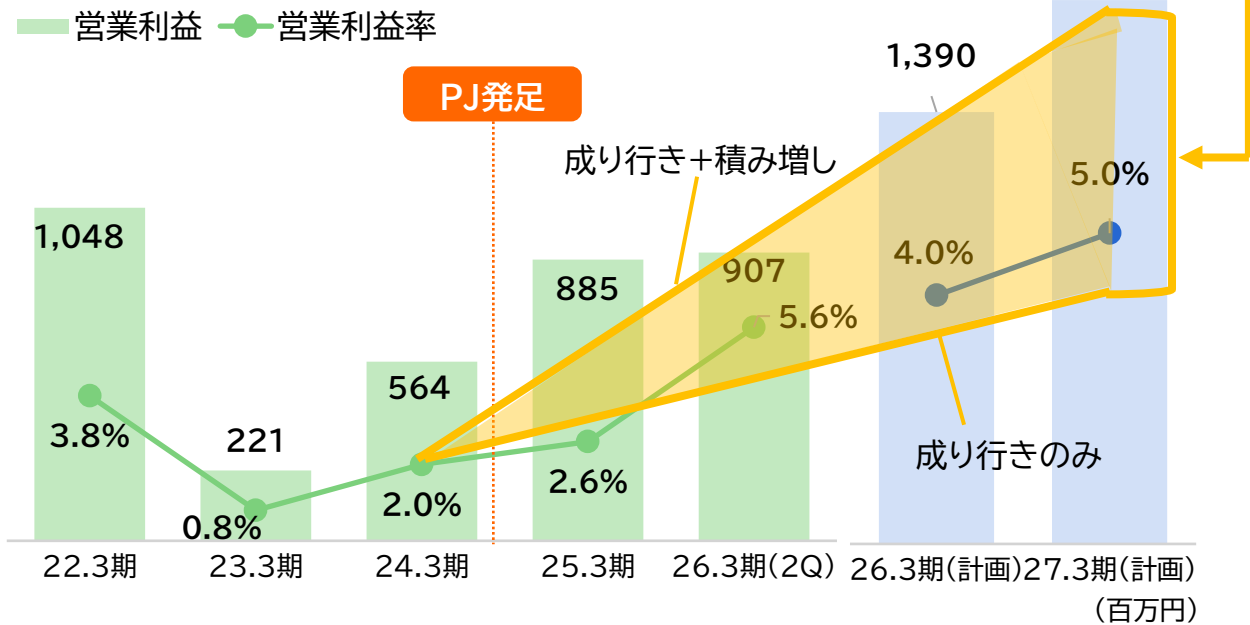
工事・工場利益改善プロジェクト

- VISION2030を策定後3年間の業績が、計画を下回る水準で推移している事態を受け、社内に「工事・工場利益改善PJ」を組成。工事原価の低減及び自社製品の単価UPなどの取り組みにより、VISION2030の目標達成を図る。
- 当PJにおいて、成り行きの利益では目標とする利益額に到達しないことが分かったため、その乖離額である **1,101百万円** を、当PJ施策の実行により確保し、成行の利益に積み増しすることで達成を目指す。

取り組み事例とこれまでの成果

ワーキング	具体的な取り組み	中間成果
工事	・集中購買による材料費削減 ・配置職員の適正化による労務費削減 ・突発外注抑制による外注費削減 ・設計変更協議の注力	材料費2.8%減、経費1.7%減を達成
工場	・FR板単価1,000円/㎡UP ・PC床版単価10円/kgUP	【土木】直接原価率で2.1%好転 【建築】直接原価率1.3%好転
営業	・前期、前々期実績による見通の見直し	【土木】設計変更による増額の獲得 【建築】設計変更の獲得、FR板契約単価値上げ

施策の効果



プロジェクト組成後、これまでは利益確保に一定の効果を得ており、これからも継続して取り組みを進める。

6-2. 株主還元の向上



基本方針

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つと位置付けており、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を図りながら、安定配当を実施する

配当方針

中長期的な企業価値向上のため、

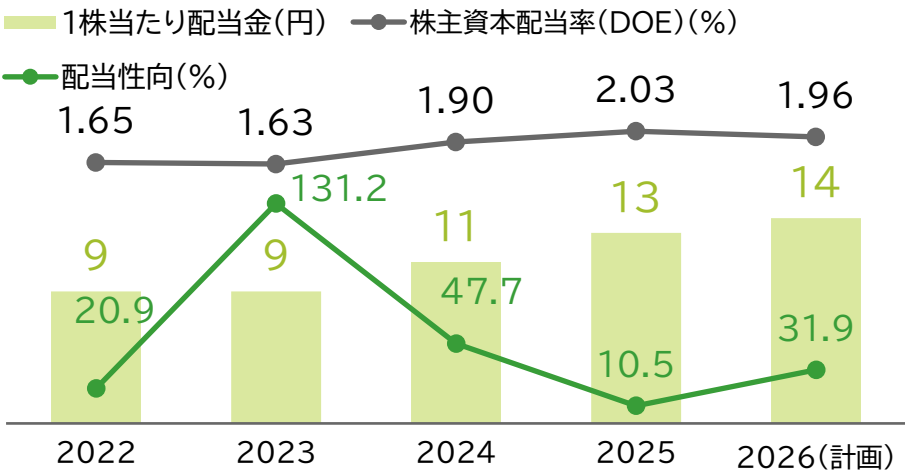
ROE: 8%超

PBR: 1.0倍以上

配当性向: 40%

DOE: 2.0%

を目指す。



※ROE=自己資本利益率
※PBR=株価純資産倍率
※DOE=株主資本配当率

株主優待について

保有株式数と保有年数に応じた基準でオリジナルQUOカードを進呈いたします。



保有株式数	保有年数	内容
100株以上	1年未満	500円分
	1年以上	1,000円分
1,000株以上	1年未満	1,500円分
	1年以上	3,000円分

▶ 詳細情報は 弊社WebサイトのIRページ <https://fujips.co.jp/ir/stock/shareholder/> をご覧ください。

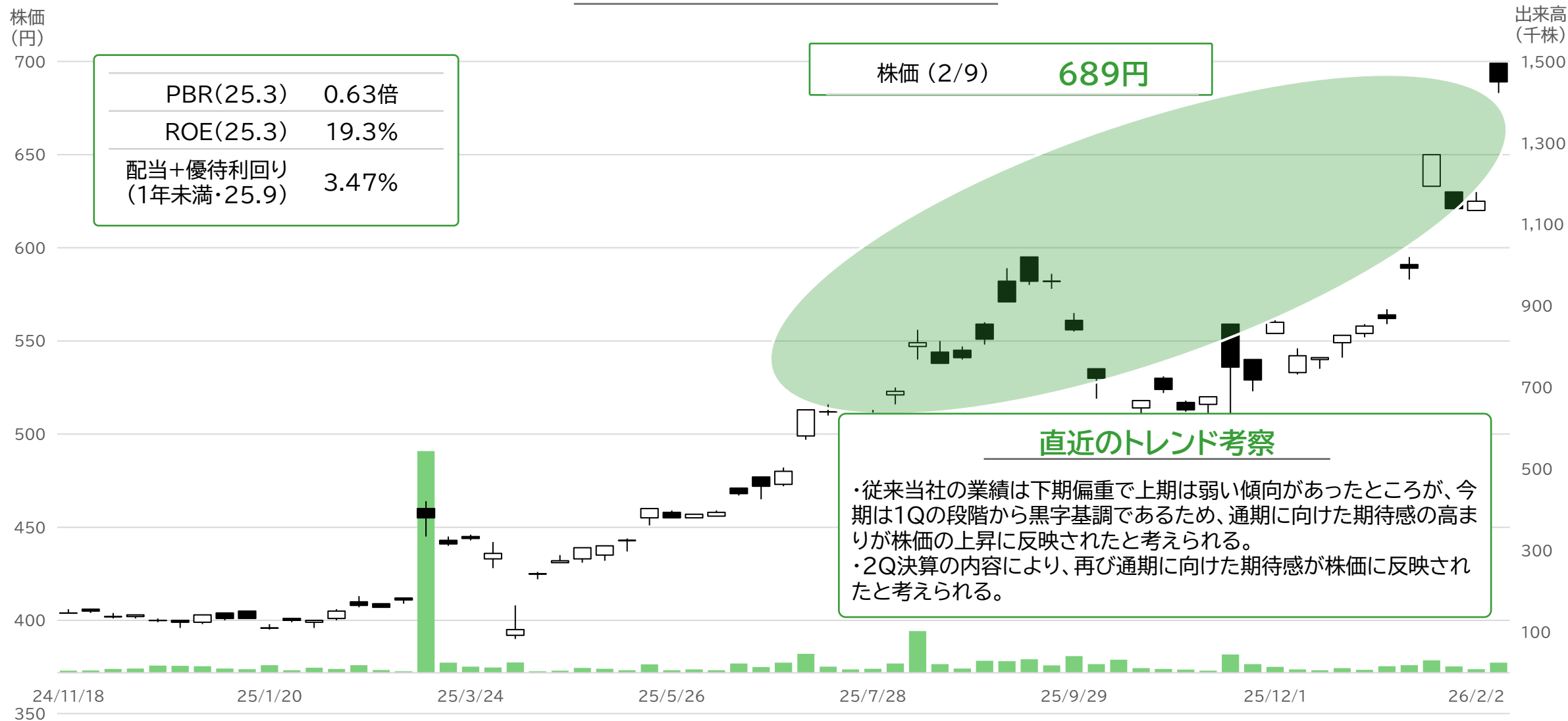
想定配当利回り

		100株以上(保有1年未満)	100株以上(保有1年以上)
ご購入予算	1株=548円※	54,800円	54,800円
配当金	1株=14.0円※	1,400円	1,400円
株主優待	オリジナルQUOカード	500円分	1,000円分
配当+優待利回り	(配当金 + 株主優待) / 株購入金額	3.47%	4.38%

6-3. 株価推移



2024年11月からの株価・出来高推移(週足)



INDEX

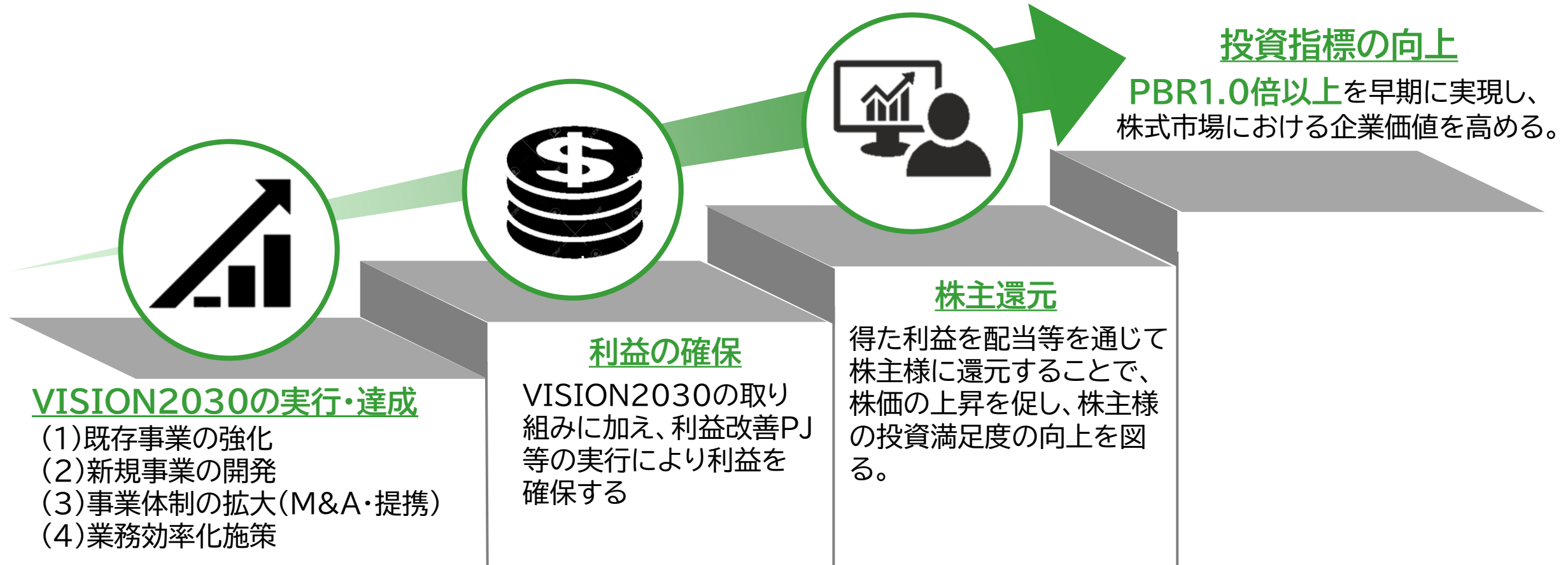
1. 会社概要
2. 特徴・強み
3. 決算概要
4. 市場動向
5. 成長戦略
6. 企業価値向上への取り組み
7. 最後に

7. 最後に

7. 最後に



- 東証スタンダード市場に上場する会社として、求められる企業価値の向上を目指す。
- 具体的には、VISION2030の各施策の実行を通じて、以下を実現する。



注意事項

本資料は情報提供を目的としており、当社株式への投資を推奨するものではありません。
また、将来の業績等に関する記述が含まれておりますが、これらは当社が現在入手している
情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により
変動する可能性があります。
投資にあたりましては、ご自身の判断により行って下さい。

本説明会に関するご意見やお問い合わせにつきましては、IR担当までお願いいたします。

IR担当 経営企画室

TEL:092-721-3473 FAX:092-721-3460

メールでのお問い合わせは当社ホームページよりご連絡ください。

URL:<https://www.fujips.co.jp>